

⑦ 県立倉敷まきび支援学校災害復旧工事

授賞機関 岡山県 土木部 都市局 建築営繕課

キーワード 関係者の協力、早期着工、地域の復興気運

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成30年7月の豪雨災害により被害を受けた特別支援学校の復旧工事。新築時の設計者や工事施工者の協力を得て現地調査を短縮して早期着工した点や、機能上問題のない箇所を再利用するなどコスト縮減した点、生徒と工事関係者が協力して地域の復興機運を高める取組みを行っている点が評価された。

1. はじめに

平成26年度に開校した特別支援学校である県立倉敷まきび支援学校が、平成30年7月豪雨災害により、建物の浸水高さが約3.8mに達し、甚大な被害を受けたことから、令和元年9月からの使用に向けて復旧工事を行ったものである。

2. 事業の概要

建物の構造部には損傷はなかったが、浸水の際の水勢で室内の家具、備品等が室内に衝突したことにより、多数の内装材、内部建具に破損があった。また、浸水後は放置されていたため、内装材等にはカビや錆が発生している状況であった。

本工事では、浸水した内装下地材、断熱材及び仕上材などを撤去し、既存の構造躯体部分を高圧水で洗浄後、乾燥させたのちに、消毒・消臭作業を行い、内装を中心に新築時の仕様に合わせて改修を行った。



浸水被害状況（教室内部）

3. 事業の成果

被災直後は、泥が堆積、備品、書類等が散乱し、足を踏み入れるのも困難な状況であったが、新築時の設計者

や工事施工者から、他の手持業務で、多忙であるにもかかわらず、復旧に協力したいとの連絡があり、現地調査に協力いただいた。

現場に精通した関係者が一同に集まり、調査に同行していただいたおかげで、改修方針、工事内容を迅速にまとめることができ、早期着工につながった。

工事着手後は、使用できるものは可能な限り残す方針のもと、建物の洗浄後、専門工事業者による詳細な施工前調査を行った。特に外部建具については、調査した結果、被害状況が軽微であったため、再利用する箇所を大幅に増やした。また、機能上、安全上支障のない破損、損傷箇所については、補修や清掃・再取付けとするなどコスト縮減に努めた。

工事期間中、生徒と工事関係者が協力して、地元の画家の指導のもと、被災者を元気づけるスローガン「負けるな真備 復興へ一致団結」を入れた看板シート（高さ5.4m×幅22m）を製作、掲示し、地域の復興の気運を高めた。



復旧工事完了（教室内部）

4. おわりに

浸水被害を受けた建物の大規模な復旧工事は施工経験がなく、工事期間が短いという点、建物の洗浄後に判明した改修内容も多くあり、困難な工事となったが、学校、施工業者をはじめとした関係者の協力のもと、当初の計画どおり、2学期から学校を再開することができた。

ご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。